

Global Energy Policy Research

GEPR (グローバルエネルギー・ポリシーリサーチ) は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所 (<http://agorajp.com/>、東京) が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

サウジのファーレフ石油大臣の東京セミナー発言要旨

GEPR編集部・Tuesday, September 6th, 2016



ファーレフ大臣 (アラムコHPより)

サウジアラビアのエネルギー・産業・鉱物資源省 (石油担当) 大臣で、国営石油会社のサウジアラムコ会長を兼ねるカリード・A・アル・ファーレフ氏が9月1日の東京のセミナー「日本サウジアラビア “ビジョン2030,, ビジネスフォーラム」で行った発言の要旨が公表された。

記事「[改革進めるサウジ、その先は?-日本の未来を左右](#)」の関連情報として紹介する。

以下、資料は抜粋 (注・主として、シンポジウム参加のメディア関係者に配布された資料)

セミナーで、ファーレフ大臣は60年に渡って、日本とサウジアラビアが良好な外交、企業同士の深い関係を作り上げてきたことを強調した。日本と日本企業は、サウジアラム

コ、そしてサウジアラビアに重要な国であると述べた。

さらに大臣は、サウジの改革プランの「[サウジビジョン2030](#)」を紹介。この改革によって、サウジは開かれ、国民に質の高い雇用と生活を提供すること、サウジ経済、そしてサウジアラムコがより強くなるという期待を述べた。そしてその結果、日本政府、企業にとってより重要な存在になりえると話した。

「サウジビジョン2030は、ガス、オイル、石油化学、また建設という従来のビジネスだけではなく、ICT（情報通信）、バイオテクノロジー、再生可能エネルギー、ナノテク、ロボット、エンターテインメントなどの分野で、両国の協力の機会を広げるでしょう」と大臣は期待を述べた。

またサウジはアジア、アフリカ、ヨーロッパの結節点に位置し、この改革で物流、情報、資本の「ハブ」を目指すという。日本企業は、ここに拠点を置くことで、国際的な事業展開がしやすくなると、サウジの強みを述べた。そして日本企業を含めて、海外企業の投資、ビジネスの誘致をしていくという。

「サウジビジョン2030が実現し、さらにサウジと日本の双方が、豊かな未来を作り上げていくことを確信しています」と、大臣は語った。

This entry was posted on Tuesday, September 6th, 2016 at 6:05 pm and is filed under [エネルギー産業の分析, 報告書](#)

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.